

2020
クリスマス

ルカ2章1～20節

「主の訪れを 待ち望む」

～メシア預言・初臨と再臨～
クリスマスのファクトチェック

【今日のアウトライン】

0. ファクトチェックから始めよう

I. メシアの誕生

II. 初臨のメシア・贖い主

III. 再臨のメシア・裁き主

IV. まとめと適用

主は来られ

再び来られる



【ファクトチェックから始めよう】

北海道

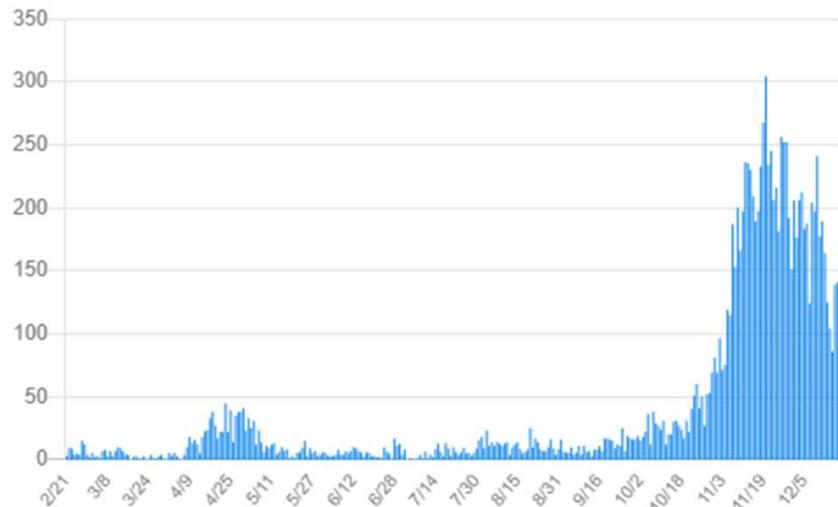
全国

陽性患者数

141 人

実績値 (前日比: +2 人)

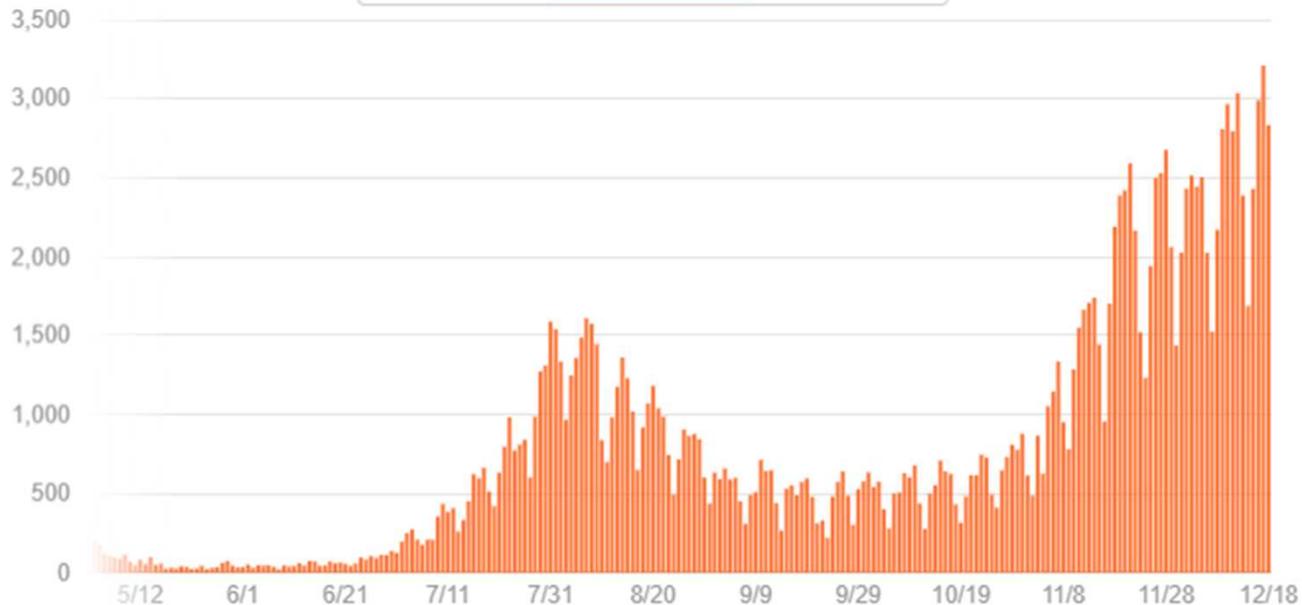
日別 累計



現在

新規

累計



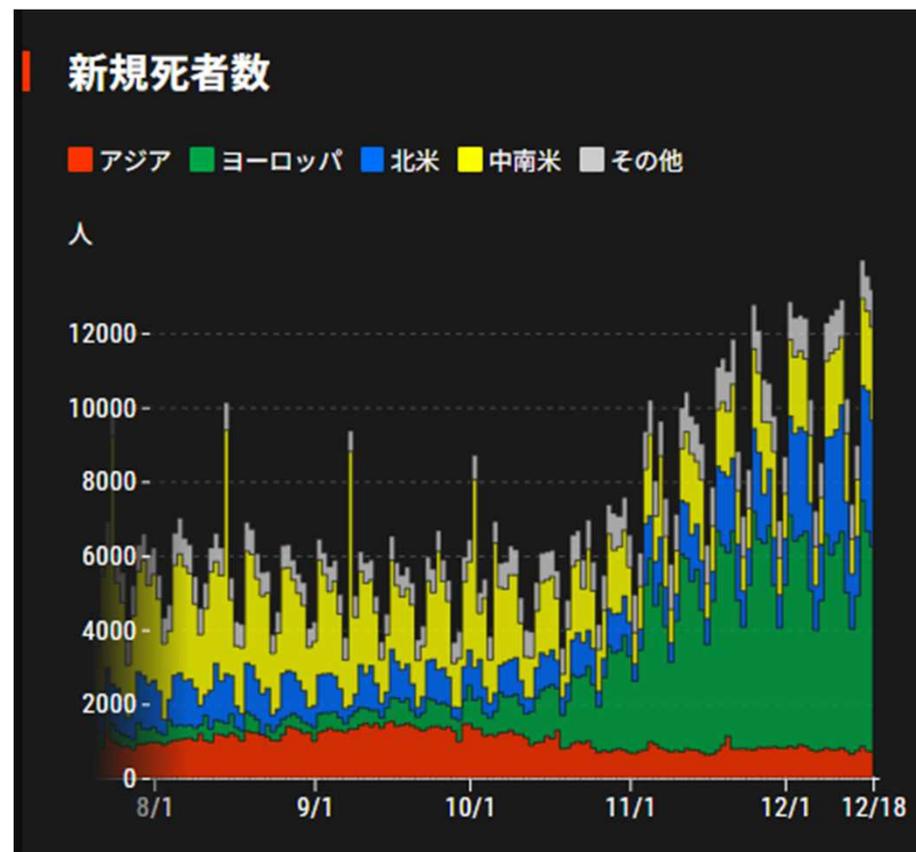
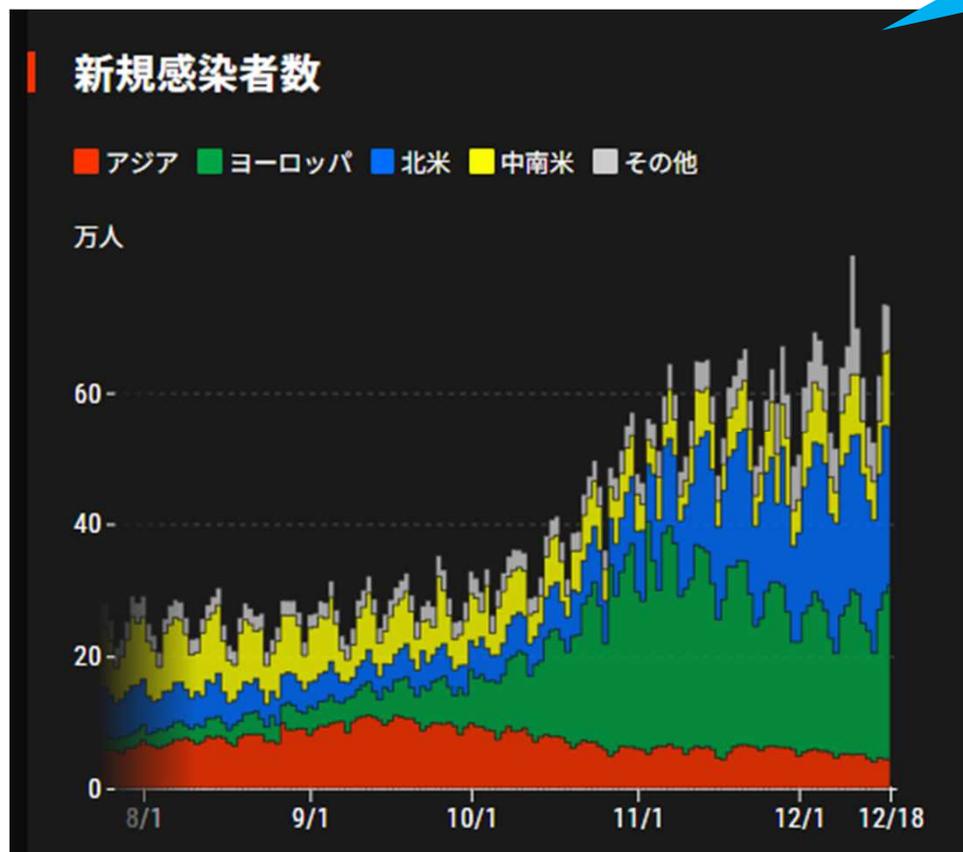
■ 旭川市で一時医療崩壊の危機。各地の施設、病院でもクラスター多発!!

■ 全国的にも、拡大の一途。

■ 十勝振興局から、5人以上の会食の中止要請 ➡ 本日の愛餐会も×

【ファクトチェックから始めよう】

世界では？

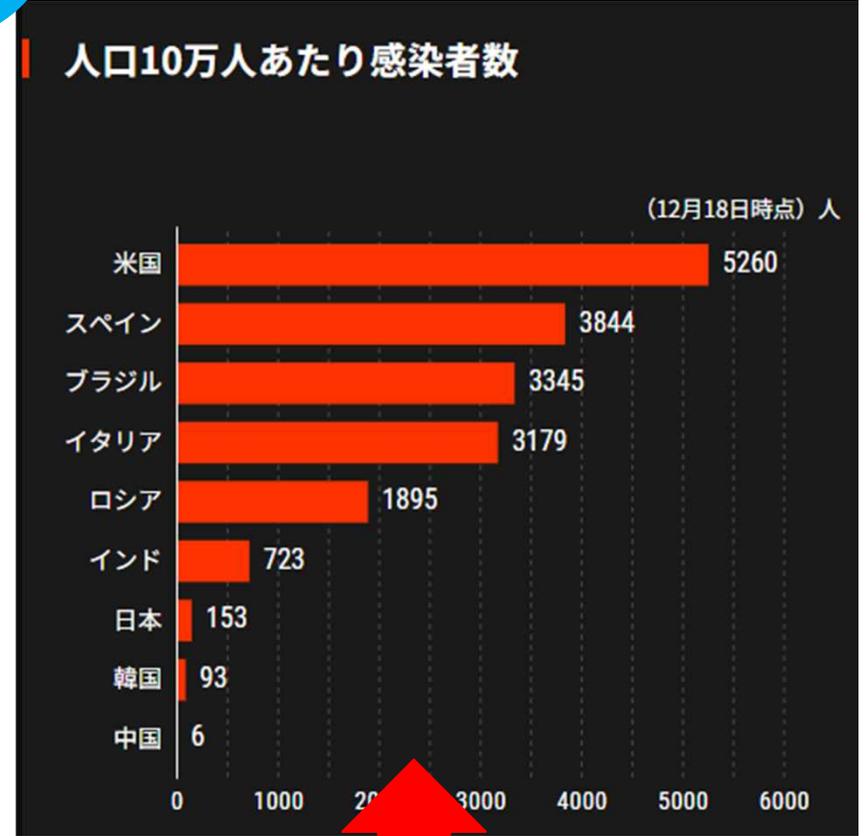
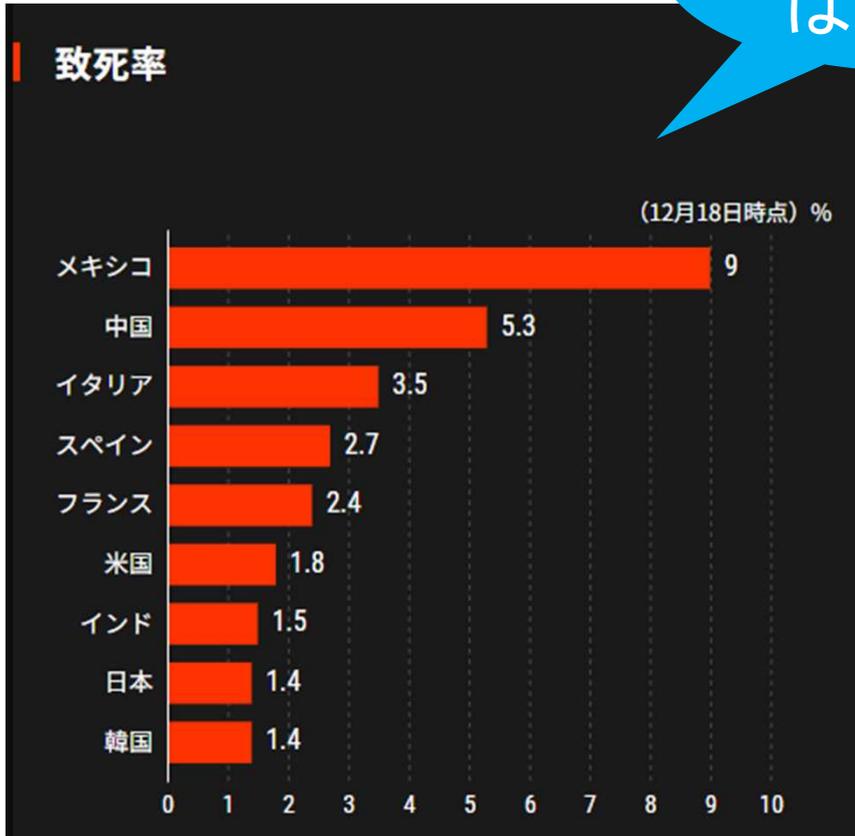


世界的には、1年たってなお、第一波継続拡大中!!

一度もおさまっていない!!

【日本は、何か特別？】

ファクターX
はある？



↑
実際は、それほど差はない？

↑
他の国と比べて接触が少なかったから
感染も広がってなかっただけ？

【ワクチンができれば大丈夫？】

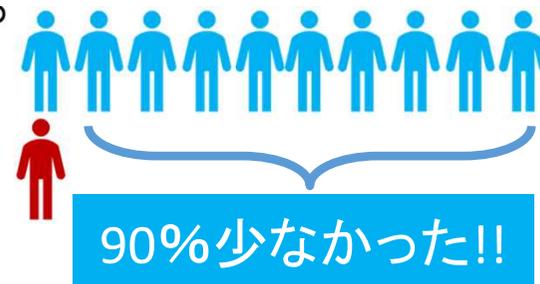
■ 90%の効果が現れたってどういうこと？

ワクチンできても
やるべきことは変わりません!!

■ ①ワクチンを投与しないグループと、②投与したグループに、
一定期間日常生活を過ごしてもらった、その結果。

① 投与しないグループの感染者は10名。

② 投与したグループの感染者が1名。



➡ 感染者10名のところ、ワクチン投与で1名になる(だろう)ということ!!

■ 検証通りなら、国民全員にワクチン投与すれば、感染者が1/10に減る。
50%の投与なら、45%減。70%の投与なら、63%減。

➡ でも、元が20,000人なら、45%減で11,000人。63%減で7,400人。

【何も変わっていない、新型コロナウイルスの単純な事実】

■ 現状、唯一効果のある対策は、“**接触を減らすこと**”

距離を開ける、マスクをする。手洗いをする。会食をしない。

■ 新型コロナウイルスの特性は、基本的に何も変わっていない。

感染しても多くは軽症か無症状。でも一定数の重症者、死者が...

感染者が増えれば、重症者も増え、医療体制も逼迫する!!

■ ワクチンの有効性はまだ不透明。

たとえ有効なワクチンができたとしても、すべきことは変わらない。

➡ 三密を避ける。マスク着用。手洗い...

➡ 状況に応じて、締めたり、ゆるめたりが、これからも続くということ。

コロナ禍で迎えた2020年のクリスマス
このただ中でも与えられ続けている主の恵みがある。

クリスマスのファクトチェック
確かな聖書預言から、クリスマスの恵みを味わい知ろう!!



I. メシアの誕生





世界のはじめ
神が天地をつくり
人間に管理を委ねました。

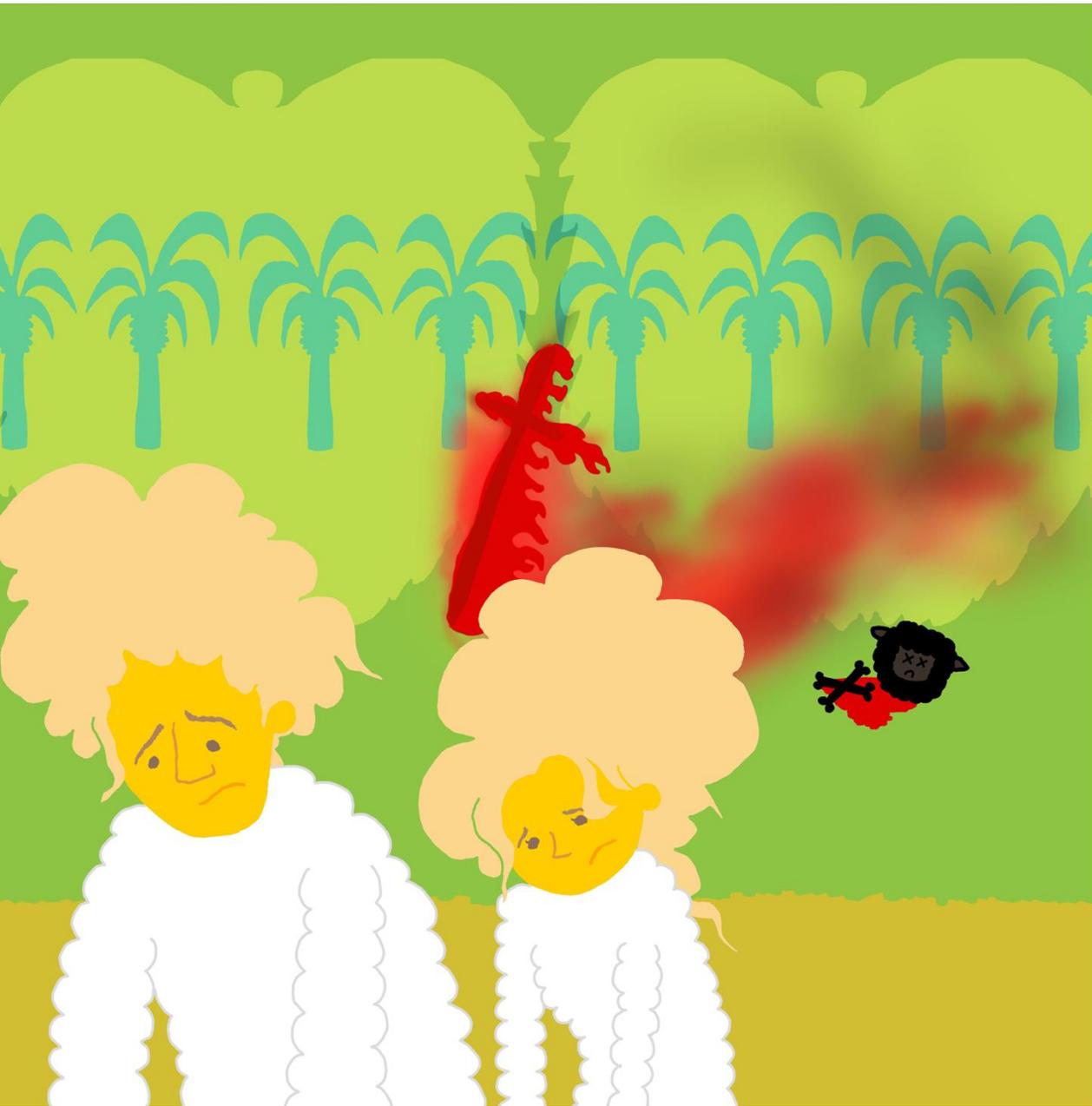
「善悪を知る木の実だけは
食べてはいけない」
それが神が、たった一つ
禁じられたことでした。

神の光が、全地をおおい、
人は、神と共にいました。



ところが 人は
悪魔の誘いに乗り、
神との約束をやぶって
食べてはならない
木の实を
食べてしまったのです

罪の根っこには、
神のようになりたいという
人間の貪欲があります



約束を破った人は、
神から 断絶されました。
神の栄光は人から去りました。

労働、出産の苦しみ。
争い、殺人。病気、死。
天災や飢え乾き...

すべての苦しみは、人と
神との断絶が原因なのです。
神との断絶が、死であり、
神と離れた状態が、罪です。



メシアは、「女の子孫」として誕生される

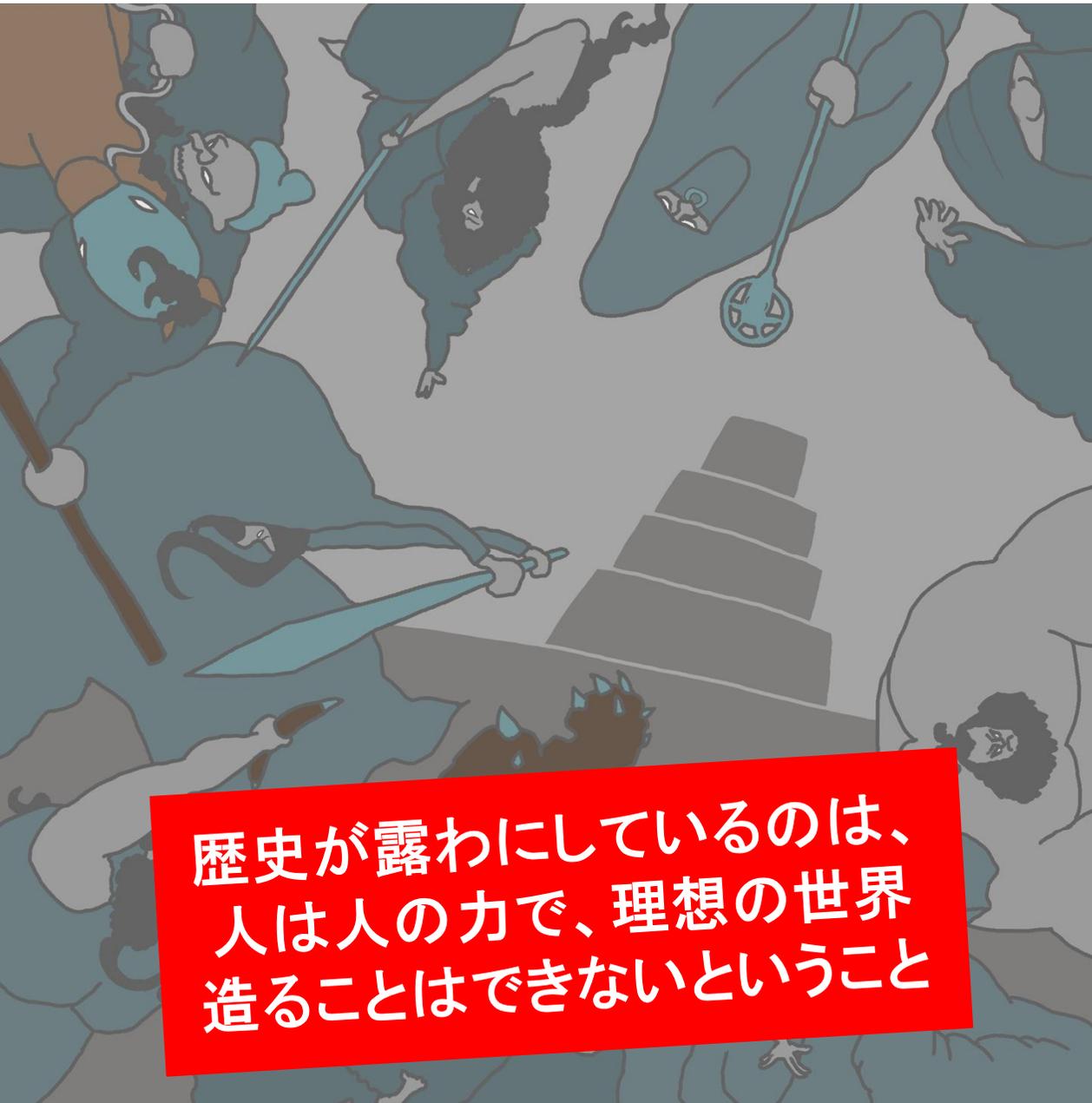
通常の出生ではないということ?!

メシアは、犠牲を払い、悪魔に勝利される

しかし 神は
人を見捨てず、いつか必ず、
メシア・救い主を送ると
約束されました。

創世記3:15

「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」 (最初のメシア預言)



歴史が露わにしているのは、
人は人の力で、理想の世界
造ることはできないということ

人は、罪を重ねていきました。

悪霊と交わり、世界的規模の
大洪水を招きました。

巨大な塔を建て、自らの力を
誇り、神になろうとしました。

神は、
人の言葉をバラバラにし、
世界中に散らされました。

創世記 12:3

あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。

地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

メシアは、
アブラハムの子孫から
誕生する!!



神は、アブラハムを選び
約束の地へ行かせました

そして神は、アブラハムから
一つの民族を育て、
その子孫からメシアを送る
と約束されました。

絶望した人類に、一筋の
希望の光が差し込みました。

【ヤコブ(イスラエル)の遺言】 創48～49章

■ 三代目ヤコブは、アブラハム契約を引き継ぎ、“イスラエル(神が戦われる)”と名づけられた。

■ ヤコブは、遺言を通して、12人の息子の一人ユダの子孫に、メシアの誕生を預言した。

「王権はユダを離れず、統治者の杖はその足の間を離れることはない。ついにはシロが来て、国々の民は彼に従う。創49:10」

メシアは、ユダの子孫から生まれる!!



【シロ】
“統治権を持つ者”
すなわちメシア

アブラハムへの約束が、
神の栄光が、
イスラエルの民を導き出した



三代目のヤコブは、
厳しい饑饉を逃れて
エジプトに移りました。

ヤコブの子孫は、
400年後には、何百万人もの
イスラエル民族に
成長しました。

イスラエルは奴隷でした。
しかし、神に助けられて
エジプトから脱出し、
カナンへ戻っていきました



神様はイスラエルを
脱出させる前に
エジプトを裁きました

イスラエルを守るため
神様は小羊の血を家の入り口
に塗るように言われました。
この日は「過越の祭り」として
祝われるようになりました。

イスラエルを守った
小羊の犠牲は、将来現れる
メシアを現していました



神は、シナイ山で、
イスラエルの前に現れました。

地震、炎、輝く雲を通して、
神の栄光が現れたのです。

神は、指導者モーセを通して
イスラエルに、
「律法」を与えました。

イスラエルが神と平和に
暮らすための決まりです。

しかし、神に背いたイスラエルは、
40年荒野を放浪することに!!

民に散々悩まされたモーセに、
主は、メシアの希望を告げられた。



あなたの神、【主】は、あなたのうちから、
あなたの同胞の中から、私のようなひとりの
預言者をあなたのために起こされる。
彼に聞き従わなければならない。申18:15

人々は、神の律法に従って、
テントの神殿である
幕屋を建てました。

その時、
完成した幕屋に
神の栄光が宿りました。

神の栄光が、
地上に宿ったのは、
人類が最初に罪を犯して
以来のことでした。



神はイスラエルを
見捨ててはいませんでした。

人々が罪を重ねる中でも、
神の言葉が、神を信じる
預言者によって、イスラエルに
伝えられていました。



メシアはどんな方なのか
長い時間をかけて、
神に教えられたことを
たくさんの方が少しずつ
書いていったのが聖書です。

【ダビデの子孫・メシア】 歴代誌 I 17:10～15

■ 紆余曲折の後、約束の地で王国を築いたイスラエル。
忠実に歩んだダビデ王に、神はメシアを預言された。

「わたしは、あなたの息子の中から、あなたの世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしのために一つの家を建て、わたしは その王座をとこしえまでも堅く立てる。I 歴17:11～12」

メシアは、ダビデの子(子孫)に現れ、
真実の永遠の王国を建てられる。





ダビデ王、ソロモン王の後、
王国は南北に分裂。神への
背きを重ねていきました。

ついに、都エルサレムは、
バビロニアに滅ぼされました。
これがバビロン捕囚です。

しかし、南北時代、神は、
たくさんの預言者を通して、
メシアについて語られました。

【預言者イザヤへのメシア預言】

「それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。イザヤ7:14」

➡メシアは、処女から奇跡的に誕生する
「インマヌエル(主が共におられる方)」

「エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。イザヤ11:1」

➡羊飼いだったダビデ王の父エッサイの血筋が衰え、貧しくなった状況でメシアは生まれる。



【預言者イザヤのメシア預言】 イザヤ9:6

「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。
ひとりの男の子が、私たちにとえられる。主権
はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、
力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」

➡メシアは、人として、赤ん坊として生まれる。
同時にメシアは、神の称号で呼ばれる。

メシアは、人であり、神である。



【預言者イザヤのメシア預言】

「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。ミカ5:2」

➡ユダ族の小さな町ベツレヘムで、
メシアが誕生することが預言された。

メシアは、ユダヤのベツレヘムで誕生する



バビロン捕囚以来、イスラエルには、
何百年もの暗黒の時代が続きました。



そして約2千年前、
イスラエルに、ついに
メシアが生まれました

その嬉しい知らせを
最初に天使から聞いたのは、
荒野で羊を飼っている
羊飼いたちでした。



メシアは、
小さな赤ん坊として、
イスラエルという小さな国の
ベツレヘムという小さな町で
マリアという
一人の貧しい若い女性から、
家畜小屋で生まれました

すべて、聖書に
預言された通りでした

メシアの誕生に関する預言は、すべて成就した。

Ⅱ. 初臨のメシア 贖い主



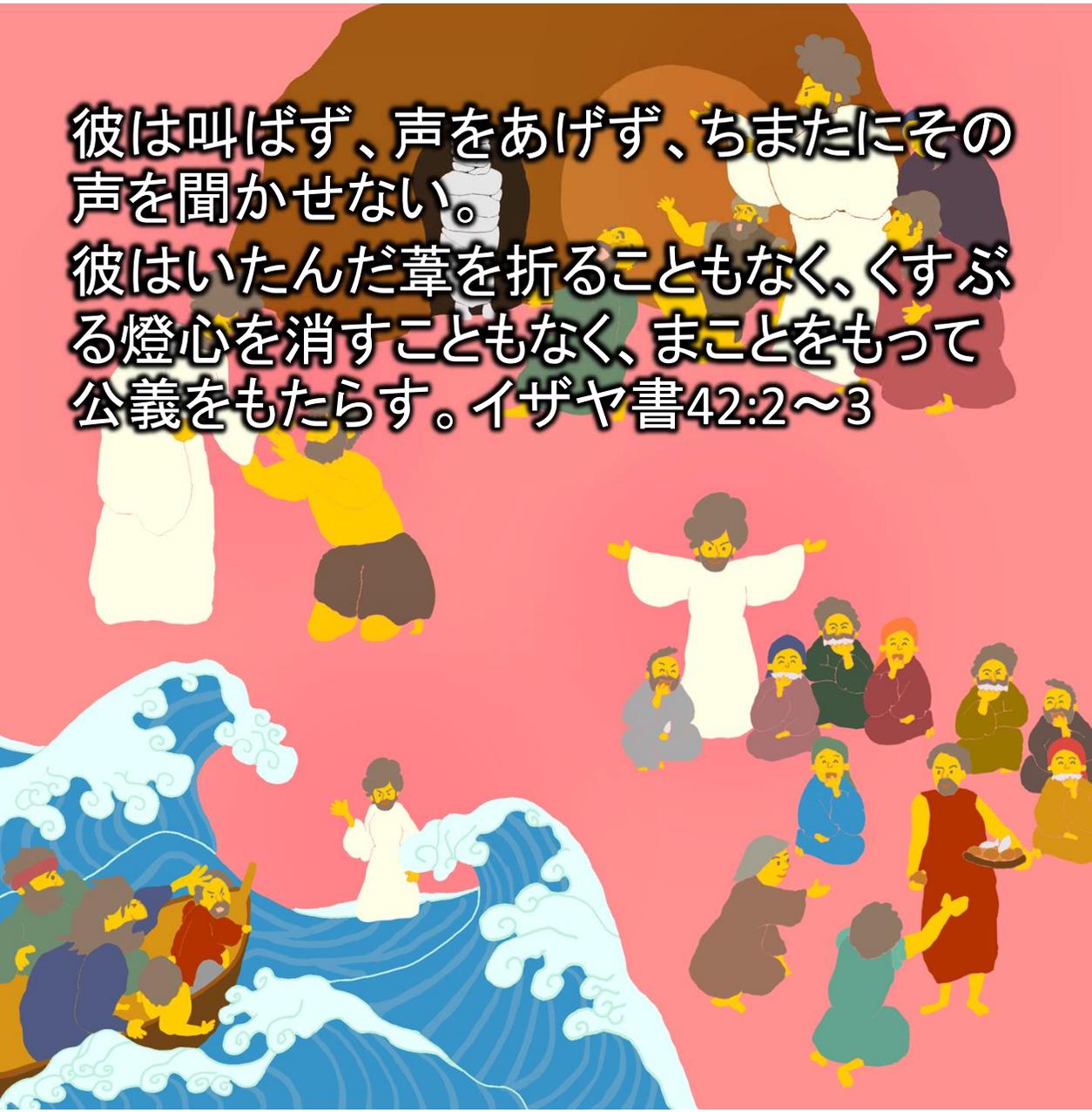
彼は主の前に若枝のように芽ばえ、
砂漠の地から出る根のように育った。
彼には、私たちが見とれるような姿もなく、
輝きもなく、私たちが慕うような見ばえも
ない。イザヤ書53:2



天地をつくった神が
神の栄光を身に宿し、
人となって
私たちのところへ来られた。

そのメシアが
イエスでした。

イエスはナザレという
貧しい小さな村で
ふつうの子どもとして
育ちました。

An illustration on a pink background depicting Jesus performing miracles. In the top left, Jesus is shown from behind, holding a large rock over a man's head. In the bottom left, Jesus stands on a boat amidst a stormy sea with large blue waves. In the center, Jesus stands with his arms outstretched, surrounded by a group of people. In the bottom right, Jesus is shown holding a tray of food, with people kneeling and reaching out to him. The text is overlaid on the top left portion of the illustration.

彼は叫ばず、声をあげず、ちまたにその
声を聞かせない。
彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶ
る燈心を消すこともなく、まことをもって
公義をもたらす。イザヤ書42:2~3

イエスは、30才から
メシアとして
働き始めました。

重い病気を治し
苦しむ人々を慰め
たくさんの奇跡を行い
メシアの証拠を見せました。

そして、ご自身こそ、
メシアだと宣言されたのです。

【メシアを拒んだイスラエル】

- 数々の奇跡にも関わらず、イスラエルは公に、イエスはメシアではないと拒絶した。
- その後イエスは、信じる少数の者だけに、真理を語られた。
 - ➡メシアが拒否されることも預言されていた。

「行って、この民に言え。『聞き続けよ。だが悟るな。見続けよ。だが知るな。』」

この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉ざせ。自分の目で見ず、自分の耳で聞かず、自分の心で悟らず、立ち返っていやされることのないように。イザヤ6:9～10」

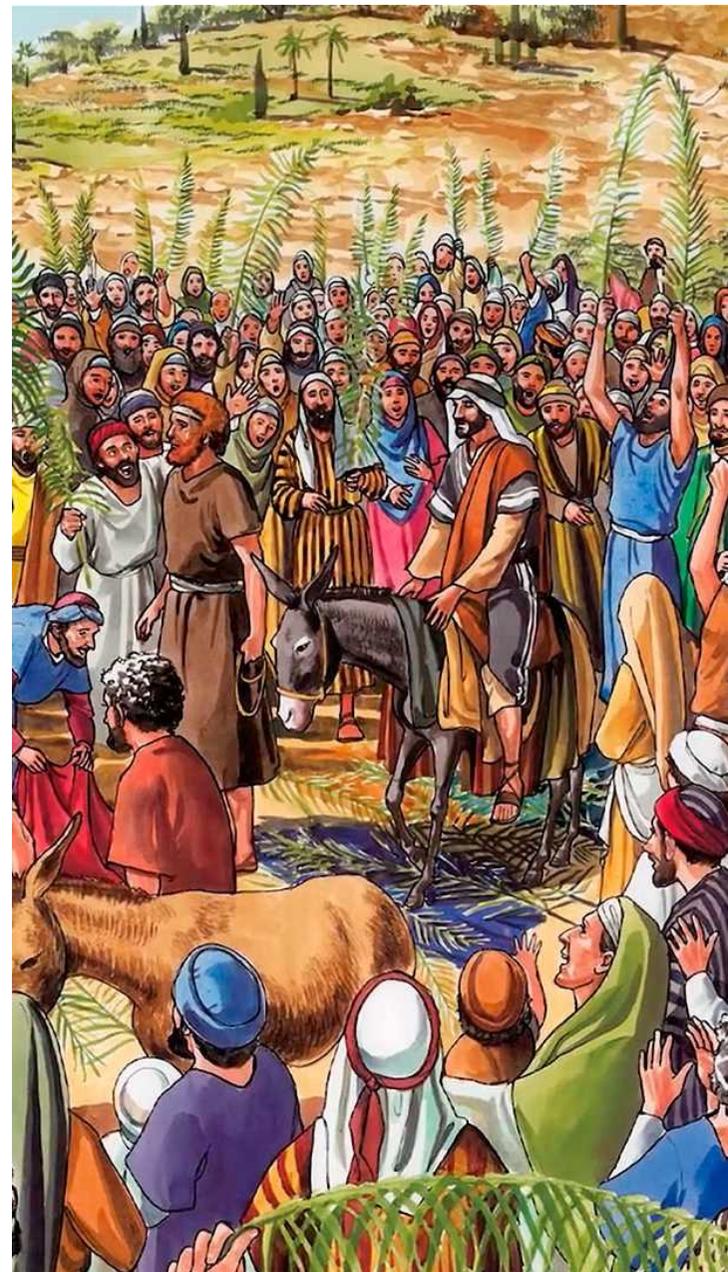


【平和の王のメシア預言】 ゼカリヤ9:9

「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。」

- メシアであるイエスは、3年半の公生涯の最後、ろばに乗って、都エルサレムに入城された。
- 民は、メシアがすぐに王になると期待した。

メシアは、民を神と和解させるため、平和の王として来られた!!



モーセ以来、続けられていた
過越の祭りそのものが、
メシアを預言していた。



イスラエルの
エジプトからの解放を祝う、
「過越の祭り」の夜。
イエス様は弟子たちと
過越の食事をしました。

そして ご自分こそ、
イスラエルと
人類の罪をあがなう
「犠牲の小羊」だと
宣言されたのです。

【メシアを裏切ったユダ】

- 12弟子の一人ユダは、メシアを裏切り、死んだ奴隷の賠償額と同じ銀貨30枚で、ユダヤ議会の指導者達に売った。
- 絶望したユダは、銀貨を投げ返し、首を吊って死に、遺体は、陶器氏の廃棄場だった谷に投げ捨てられた。呪われた地は、銀貨30枚で買い取られ、異邦人の墓地となった。(使徒1:16～19)

【主】は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた。ゼカリヤ書11:13



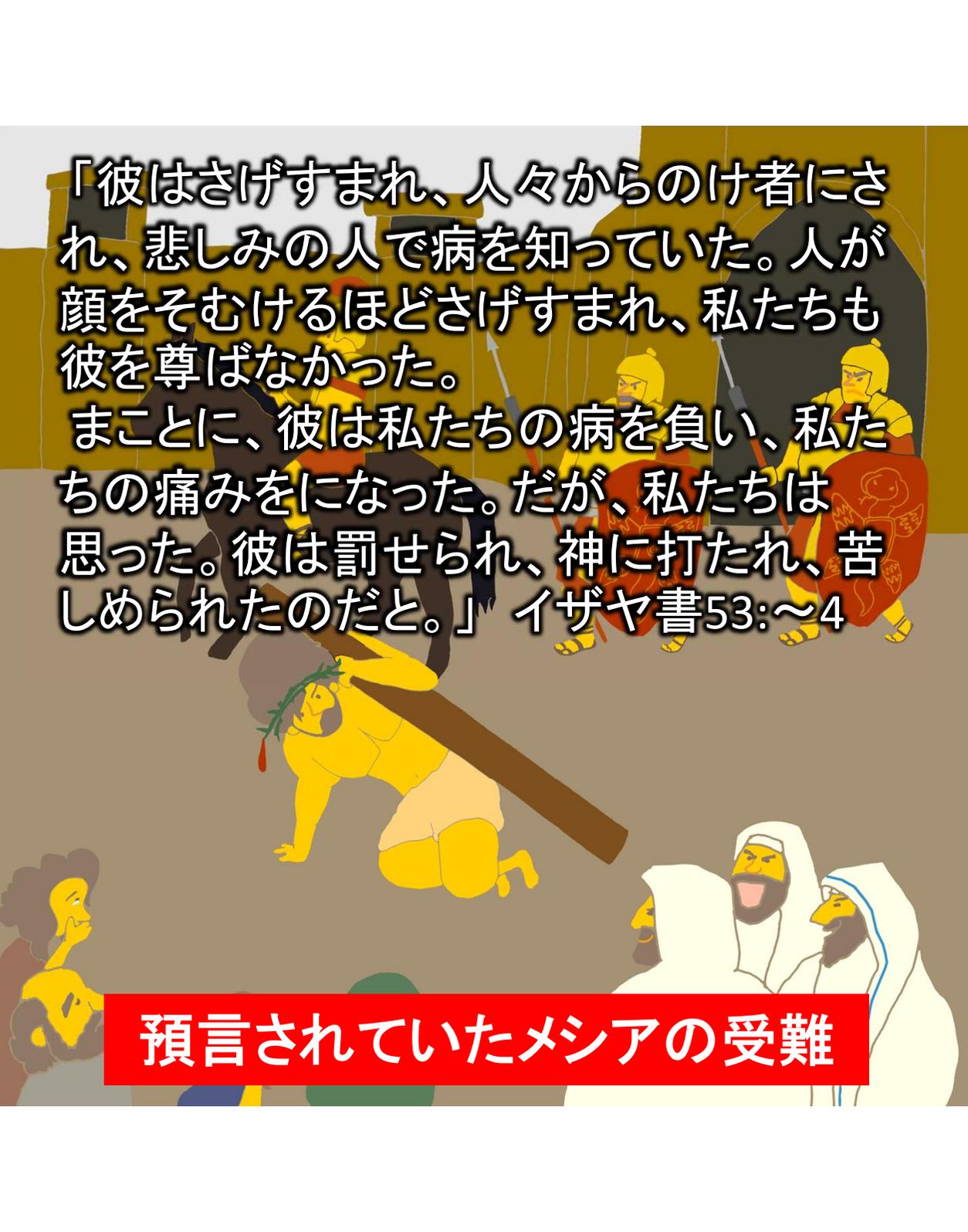
メシアが
裏切られることも
預言されていた



イスラエルのリーダーは、
イエスを悪霊だと言って
拒否しました。

それでも イエス様は
人々のために祈りました。

「父よ 願わくば、この杯を
すぎさらせてください
しかし主よ あなたの
み心が なりますように」

An illustration depicting the crucifixion of Jesus. Jesus is shown in the center, wearing a yellow loincloth and a crown of thorns, being led by soldiers in yellow armor. One soldier is carrying a wooden crossbeam on his shoulder. In the foreground, several men in white robes are watching the scene with expressions of concern and despair. The background is a simple, stylized landscape with a yellow sky and a brown ground.

「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。」 イザヤ書53:~4

預言されていたメシアの受難

何の罪もないにも関わらず、イエスは、弟子のユダに裏切られ、ユダヤとローマの二つの裁判で裁かれ、死刑が決まりました。

十字架刑という、最も残酷な、見せしめの刑でした。

弟子たちは みんな逃げてしまいました。

「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。

彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。」

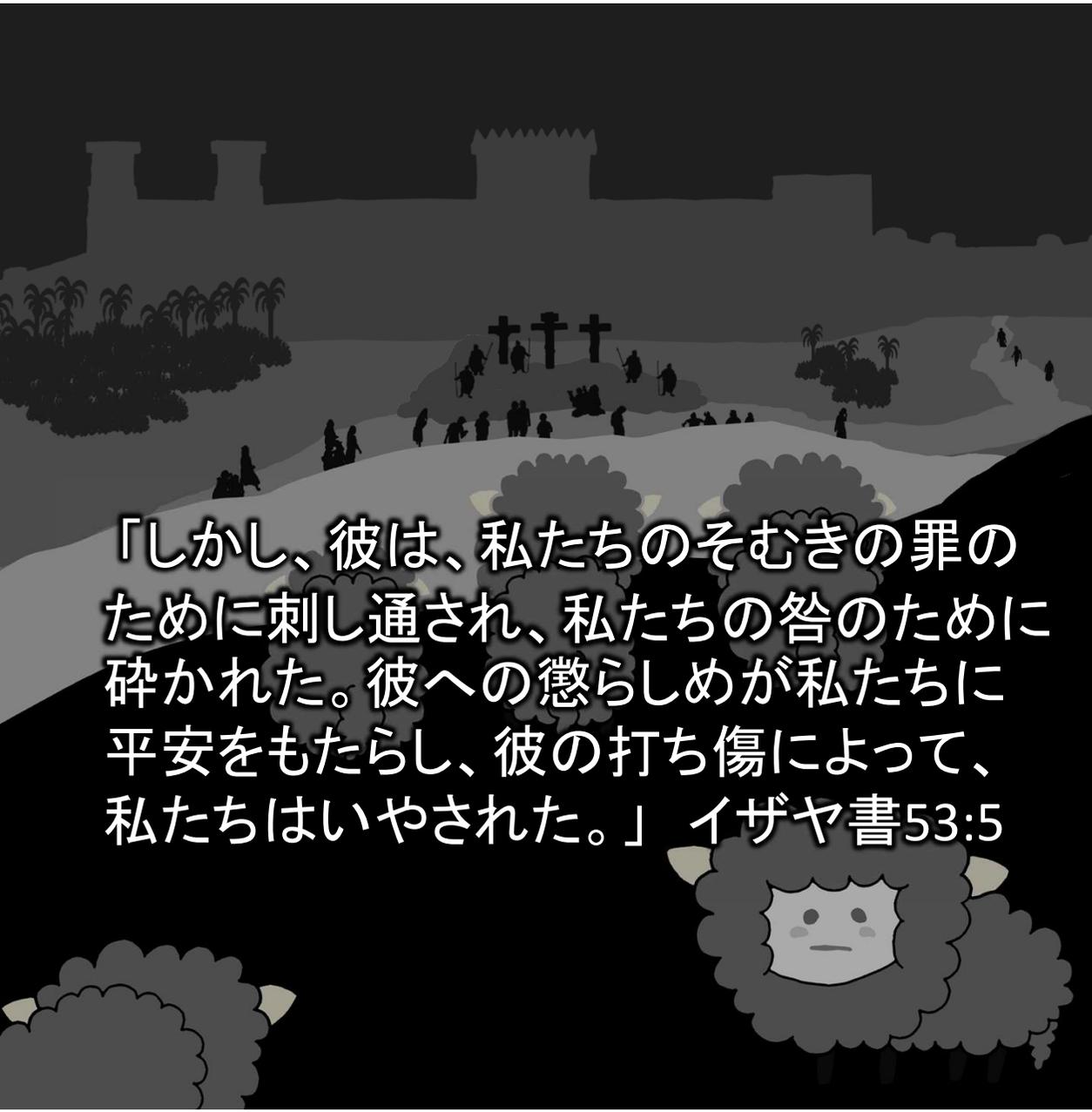
イザヤ書53:6~7



十字架の上で
イエスは叫びました。

「父よ彼らをお赦してください
彼らは何をしているのか
自分で分からないのです」

これを隣で聞いた囚人は、
イエスをメシアと信じて、
死ぬ間際に救われました。



「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために碎かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」 イザヤ書53:5

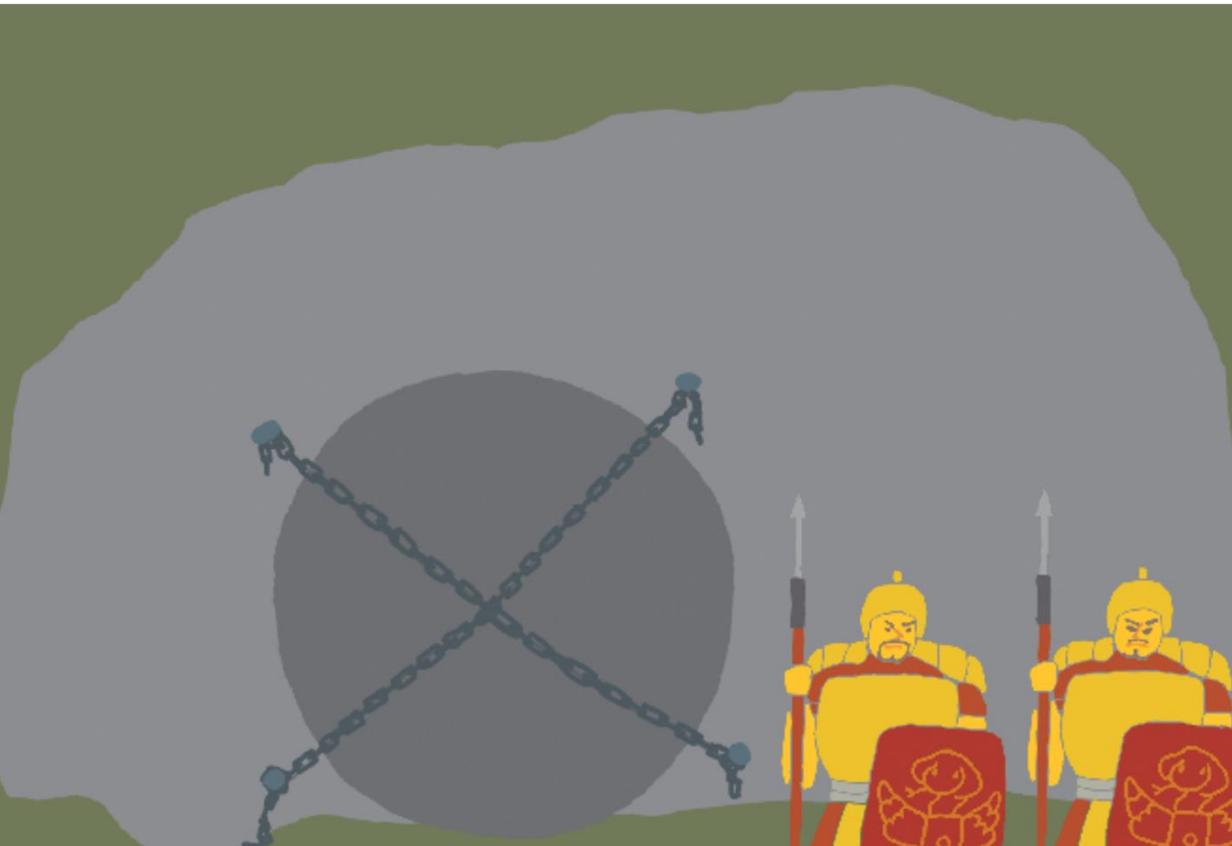
イエスは最後に
「完了した」と叫ばれました。

私たちの罪の身代わりに、
イエスは、神の怒りの杯を
受けられ、十字架で死んで
墓に入れられたのです。

隠れ弟子だったユダヤ議員
が名乗り出、イエスの遺体を
引き取り、墓に葬りました。

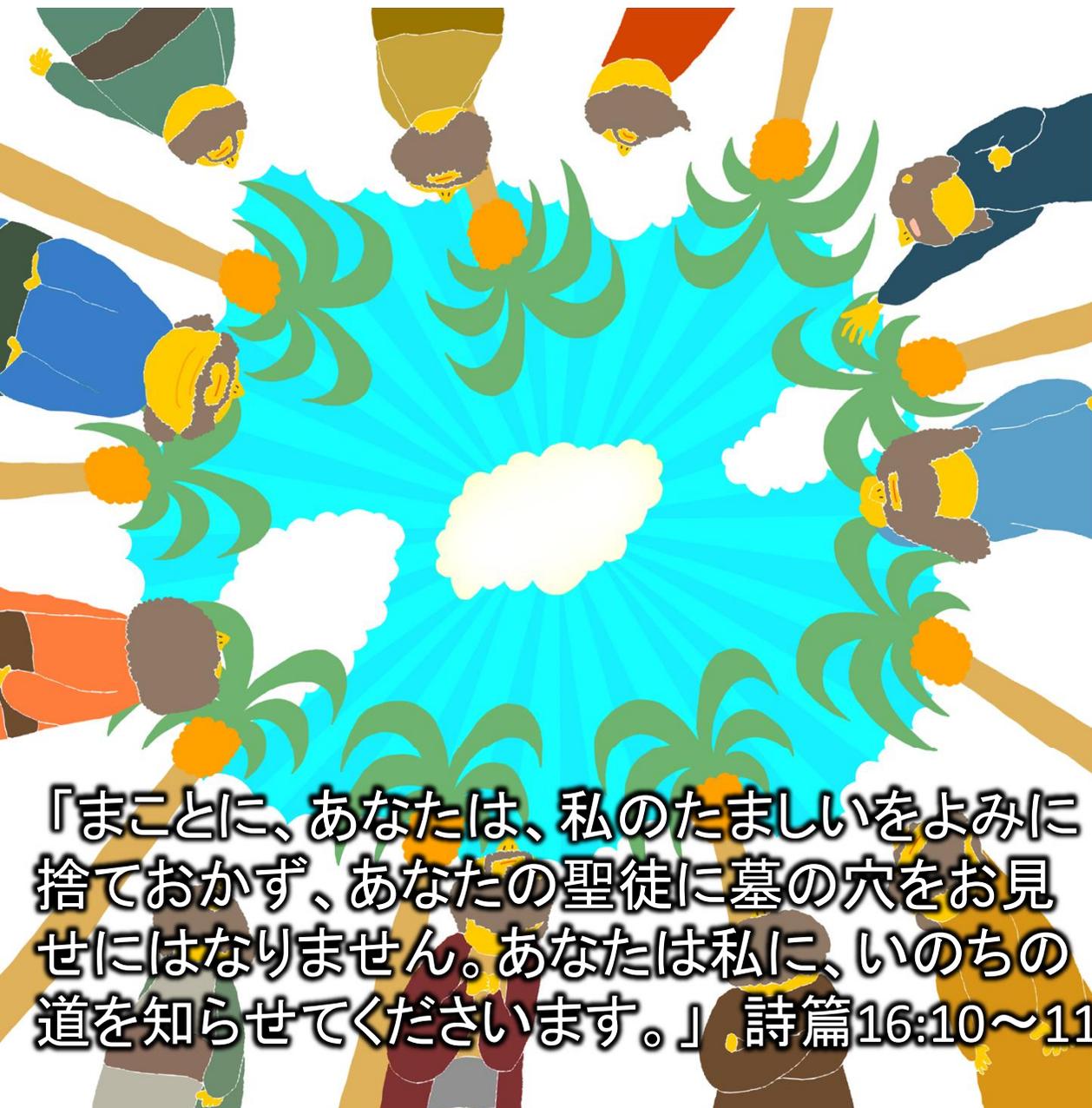
ローマの兵士たちが、
墓を厳重に見張りました。

弟子たちが死体を盗んで
「イエスは 復活した」と
言い出すかもしれないと
イスラエルのリーダーたちは
不安に思ったのです。



「彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は
富む者とともに葬られた。彼は暴虐を行わず
その口に欺きはなかったが。」

イザヤ書53:9



「まことに、あなたは、私のたましいをよみに
捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見
せにはなりません。あなたは私に、いのちの
道を知らせてくださいます。」 詩篇16:10~11

しかし三日目に、イエスは、
死を打ち破って
復活したのです。

悲しんでいた弟子たちは、
復活したイエスと会い、
イエスは、神ご自身だと
かたく信じました。

40日後、イエスは、
天に昇っていかれました。



Ⅲ. 再臨のメシア 裁き主



「主の大いなる輝かしい日が来る前に、
太陽はやみとなり、月は血に変わる。
しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。
使徒2:20～21」

イエスの昇天から10日後。
弟子たちに、神の霊である
聖霊が降りました。

弟子ペテロは、イスラエルが
十字架にかけて殺したイエス
こそメシアだと宣言しました。
これが、教会のはじまりです。

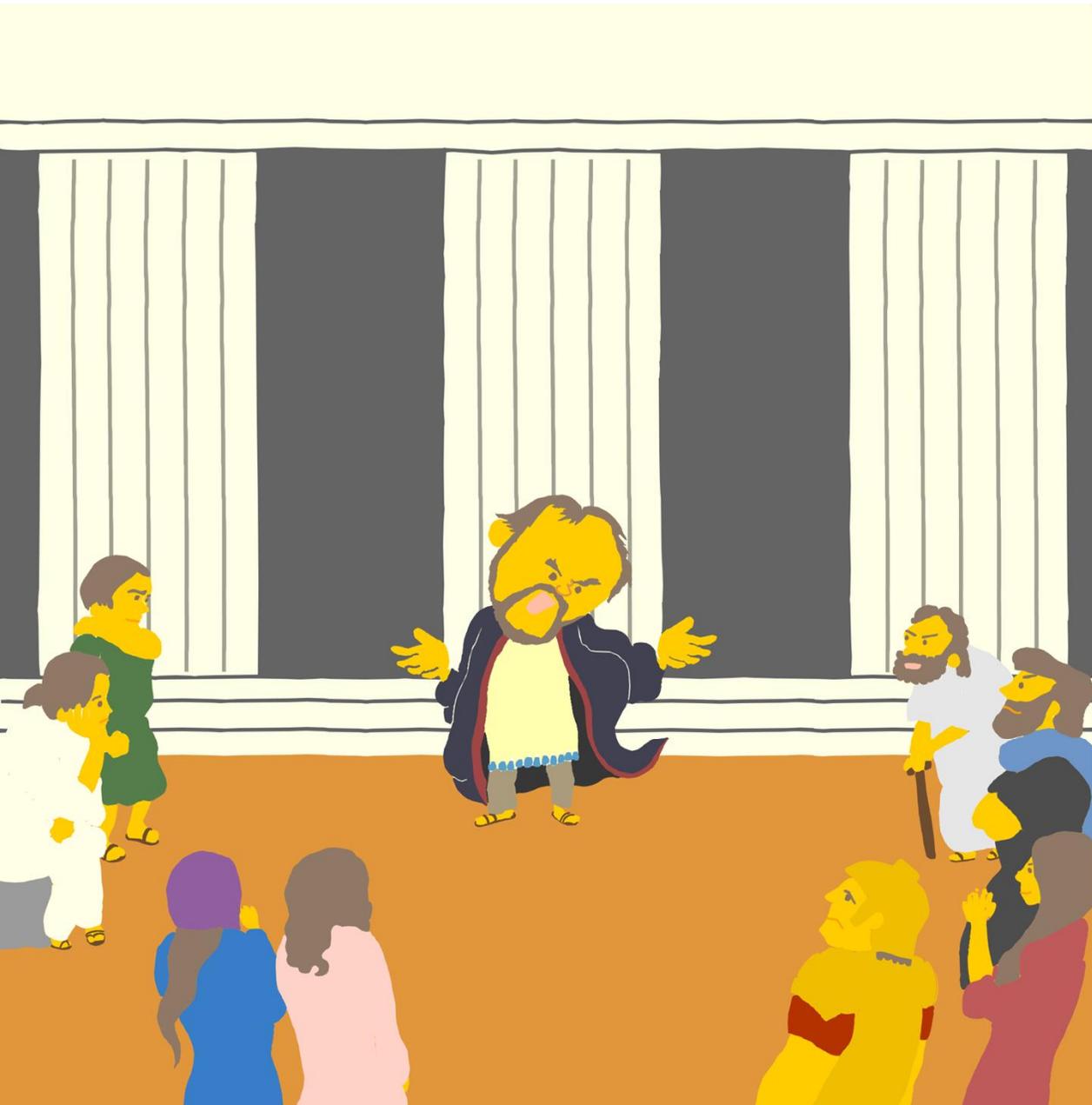
メシアが裁き主として再び来ら
れる終わりの時まで、福音を
告げ、人々を救いに導くことが、
クリスチャンの使命です。



弟子たちは イエスを
信じないようにと
反対する人たちから
苦しめられました。

厳しい迫害が、
ユダヤ人からも、
異邦人からも起こりました。
殺された人もいました。

それでもたくさんの方が、
イエスをメシアとして
信じていったのです。



弟子たちは、世界中に 福音を
よい知らせを伝えていきました。

「イエス・キリストは、
私たちの罪のために
十字架で死んで、葬られ、
復活された。」これが福音です。

福音を信じ、イエスを救い主として
受け入れた瞬間、人は滅びから
救われ、その人自身の中に、
神の栄光が宿るのです。

二度と失われることのない神の光。
それが、永遠の命です。



天のイエスは、私たちの祈りを聞いてくれています

世の終わりに イスラエルが悔い改めて、イエスはメシアだと信じた時、イエスは、王の王として戻ってきます。

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。ゼカリヤ12:10」

【世の終わり・メシアの再臨】

- イエスは、裁き主として、すべての悪を裁き、罪と罪人を地上から一掃します
- 世界を、神が最初に造られた時のような素晴らしい世界に変えられ、福音を信じたすべての者を、その地に永遠に住まわせられます。

「恐れつつ【主】に仕えよ。おののきつつ喜べ。御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。 詩篇2:11~12」



IV. まとめと適用

主は来られ
再び来られる



【メシアは二度来られる】 ゼカリヤ9:9～10

■ 初臨のメシアは、受難の僕。平和の王。

シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。

➡メシアは、平和の王として、十字架で罪を負い、死ぬために来られた。

■ 再臨のメシアは、王の王、主の主。栄光を帯びた裁き主。

わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶やす。戦いの弓も断たれる。この方は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大川から地の果てに至る。

➡メシアは、裁き主として罪と罪人を裁き、世界を回復するため来られる。

【初臨の主は来ませり 再臨の主は、まもなく来ませり】

- 人の罪によって壊れた世界を、それでも主が保たれている。
ますます混沌とする今は、福音を信じて救われるための恵みの時代。
- ある瞬間、福音を信じたすべての人は、天に挙げられ、その後、
世界は、最後の裁きの7年間に突入する。
- 空前絶後の大災厄の中、それでも多くの人が、主を信じて救われる。
悪魔の化身・反キリストが、世界を支配し、多くの殉教者が出る。
- 大患難時代の最後、反キリストは、神の民イスラエルを殲滅すべく、
世界中の軍隊を集結させる。それがハルマゲドン・最終戦争。
- 絶体絶命の危機の中で、イスラエルは、十字架にかけたイエスこそ、
自分たちのメシアであると信じ、悔い改め、メシアを呼び求める。
- メシアが王の王として再臨され、世界を裁き、回復される。
福音を信じたすべての者は、新しい完全な世界に招き入れられる。

【今、すべての人に求められていること。信仰者に求められていること】

■混沌としたこの時代は、それでもなお、恵みの時、救いの時。

すべての人は、福音を信じて救われるよう、神に求められている。

■神の怒りからの救いをもたらす福音とは、主イエス・キリストが、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、復活されたと信頼すること。主イエスは今も生きておられ、罪人の私を永遠に救うことができる。

■信じたならば、信じ続けて歩いていくこと。はるかな将来に約束された確かなゴールがある。その確信が、今をよりよく生きる力になる。どんな困難や暗闇の中でも、決して失われない希望の光がある。

■すでに来られ、まもなく来られる主イエスを待ち望もう。

それが、私たちが覚えるべき、真実のクリスマス。主の聖なる日。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

天におられる主イエスは、栄光の王として もどってこられます。

すべての敵(てき)を打ち破(やぶ)り、永遠(えいえん)の御国(みくに)に、
この身を招(まね)き入れてくださいます。

約束(やくそく)された はかりしれない恵(めぐ)みを、

今この瞬間(しゅんかん)にも 味わわせてください。

あなたの恵みに圧倒(あつとう)されて、ただ、すべてあなたに栄光を

帰(き)すべく、伝道者(でんどうしゃ)として ここからつかわしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」